

48
ページ



山形の石橋群を見に行きました。その時の状況を説明させていただきます。**43P**

これは米沢の道の駅のところで集合して、万世大路の石碑があるところです。ここで、「山形の石橋群」の公募申請を担当した山形県の元職員の星秀幸さんにガイド役をお願いしました。**44P**

これは米沢市の「舞鶴橋」です。これは登録有形文化財にもなっています。ちょうど行った時に結婚式が行われていて、舞鶴橋で記念撮影をされていました。**45P**

これは「幸橋」です。これは、一度解体されて石橋の構造が明らかになり、古い石材と新しい石材で組み直しています。**46P**

これは「唐寿橋」です。ラーメンのおいしい赤湯というところです。ここにもすばらしい石橋があります。

47P

これは、先ほど出てきた「吉田橋」です。これは新幹線あるいは奥羽本線からも見えます。列車が今まさに通ろうとしているところですね。**48P** これは2009年度の認定ですから、十数年たつと銘板が紫外線で焼かれてこんな色になります。風格が出てくるというか、劣化しているといいますか、こんな感じですね。**49P** ところが、この吉田橋をよく見ると、石橋の間につる植物を中心に雑草がいっぱい生えています。ここは実は大型のトラックが通るので、石橋の道路面は除草されますが、残念ながら石橋の上流側・下流両方が草ぼうぼうでした。

50P 当然、ここは雪が降りますので、凍結・融解を受けると根っこも含めてどんどん石が緩んでいきます。非常に危機的な状況です。こういうことをしっかりメンテナンスしなければならないということです。**51P** ほかの石橋群もいろいろなところに植物が生えてしまっています。**52P**

これは「覗（のぞき）橋」というところですが、個人的にはこの橋が私は一番好きです。輪石が1列だけですが、皆さん、ここで非常に感動されていました。なぜ感動されたかという、周りの風景がいいですね。公園

49
ページ



50
ページ



50P 当然、ここは雪が降りますので、凍結・融解を受けると根っこも含めてどんどん石が緩んでいきます。非常に危機的な状況です。こういうことをしっかりメンテナンスしなければならないということです。**51P** ほかの石橋群もいろいろなところに植物が生えてしまっています。**52P**

51
ページ



化されて、いわゆる榎下の宿場のところの形にこの石橋がものすごくフィットしているという格好になります。**53P**

これが「堅磐（かきわ）橋」です。これも山形新幹線から見えます。**54P** ところが、今はあまり使っていないようで、これを見るとやはり葛の繁茂による石橋の損壊がすごい状況です。**56P** 補修した跡がいろいろ見えますが、このままだとますます大変な状況になると危惧しています。

こういう石橋群の保全・利活用するときに、使われなくなるとこのように雑草が猛威を振るってくるという問題があります。先ほど奥会津で見られた新しく発見された石橋がありましたが、ちょっと崩れていましたよね。あのまま一冬越すというのは非常に危険ではないか思います。早急に対応して崩れないように処置をお願いしたいなと思います。

それから、相澤さんから紹介がありましたように、信夫橋の石垣の跡が見つかりました。あれは貴重な財産、宝物だと思います。公募は9橋といましたが、実は10橋出しています。10橋のうちの1橋は何かというと、信夫橋です。この橋の親柱と擬宝珠が残っていましたが、本体が残っていないので認定できないということで取り下げています。ですが、先程の石橋の石垣の跡とか、分散している親柱等を集めて一つの形にして、信夫橋についても「福島の石橋群」として追加認定をぜひやっていただきたいと思っています。そのためにも、いろいろな情報をきちんと集めて、管理者と連携していただけたらなと強く思うところです。以上です。

■知野 後藤様、ありがとうございます。具体的に石橋の問題点と維持・保全に必要なことをご提案いただけたいと思います。世界遺産でも状況が厳しいと「危機遺産」とか、そういう枠組みになりますので、壊れて困るという危機遺産的な部分で、石橋というものは非常に注目しておく必要があるかなと聞いていて思いました。ありがとうございました。

続いて大津山様となりますが、先日、国宝に指定された通潤橋ですが、1854年に肥後の名石工・橋本勘五郎により建設されてから約170年が経過していますが、現在も農業用水を供給するための現役の橋として活躍していることをご説明いただきました。大津山様から、この通潤橋の保全活動を通じて、福島の石橋群の保全に向けた提案をぜひいただければと思いますが、いかがでしょうか。お願いいたします。

■大津山 それではよろしくお願いいたします。直近の事例からご紹介させていただきます。

59P 通潤橋は、2016年の熊本地震で、前震・震度5強、本震・震度6弱の揺れに見舞われ、被災をしました。ただ、熊本地震時点では石垣が崩れるなどの大きな被害はなかったのですが、写真にあるとおり、通水管から大量の水漏れが発生しました。これは石が壊れたのではなくて、石管と石管の間の目地が損傷したことに伴う漏水でした。 **60P**



52
ページ



53
ページ



54
ページ



56
ページ

59
ページ

59 P

2016年4月熊本地震
(前震：震度5強、本震：震度6弱)



石垣の崩落状況 橋上の漏水状況

60
ページ

60 P

2018年5月豪雨による石垣崩落



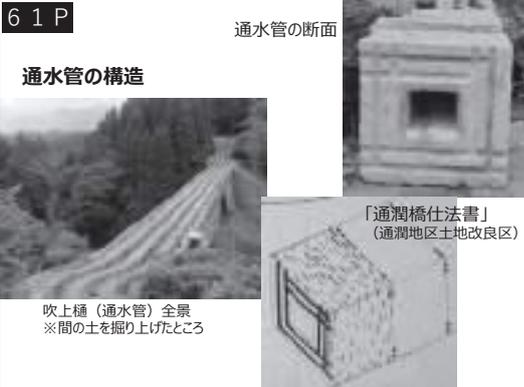
石垣の崩落状況 石垣の崩落状況(近景)

61
ページ

61 P

通水管の断面

通水管の構造



吹上樋(通水管)全景
※間の土を掘り上げたところ

「通潤橋仕法書」
(通潤地区土地改良区)

62
ページ

62 P

通潤橋の目地材(漆喰)

漆喰の材料：赤土、白灰(消石灰)、砂、塩、松葉汁



通水管からの漏水状況 受益者(通潤地区土地改良区)による漆喰の詰替え

その後、災害復旧工事を町で行ったのですが、その途中で、今度は2018年の5月に石垣の一部が崩れるという事態も起こりました。今までの歴史の中で初めて石垣の石が崩れたということで、非常に大きな危機を迎えまして、またこの後、災害復旧に取り組んできました。

61P これらの災害復旧の経験を少しお話ししたいのですが、まず、先ほどの漏水した通潤橋の目地の構造ですが、石と石をつなぎ合わせて通水管はつくられており、1列にだいたい200以上の石をつなぎ合わせています。その目地が、写真のとおり二重に半円状の溝を掘って、2つの石管を合わせたときに円形の溝ができるような形で目地をつくっています。 **62P**

ここに、漆喰(しっくい)という、地元では赤土と消石灰、砂と塩と松葉汁を混ぜたものを使って漏水の修理をするんですが、これを実施されるのが、代々、受益者の通潤地区土地改良区さんです。この土地改良区の方々は、地元で農業をされている方で、近年は高齢化が進んでいます。高齢化や人手不足が進む中で、こうした伝統的な技術を継承していくということがまず必要になってきます。 **63P**

そして、石垣が壊れたので、今後は石工さんによる石積みの復旧が必要となりました。熊本には多くの石造アーチ橋があり、昔はそれらの建造を担った石工さんもたくさんおられたのですが、やはりアーチ橋建造が行われなくなるとそういった技術継承者も非常に少なくなっていました。実は熊本地震の前に、民間団体の方がこうした事態に危機感を抱いて、石工養成講座を始めていただいております。通潤橋はそういったこともあって石工さんによる石積みの復旧ができたということです。これがなかったら大変なことになったと思っております。 **64P**

そういった災害復旧の対応の基盤としましては、町では地震のちょうど直前ですが、「保存活用計画」というものを作り、 **65P** 専門家の先生方、地元の方と連携して、こういった維持管理、それから工事等の対応を行っていくという体制をつくっておりました。 **66P** また、3次

元の計測なども行っておりましたので、そういったデータを使いつつ、いろいろな方々と連携をしながら修理を進めていくということができたかなと思っております。 **67P**

もう一つ大事なのが、こういった修理工事をして終わりではないので、メンテナンスの体制づくり、それから、モニタリングといって変異の経過観察などを行っていく体制づくりを通潤橋では重視

しております。**68P**

ここに書いておられますとおり、先ほど写真でもあった通水管の漏水修理については、大規模な工事という形ではなく漏水が起これば定期的に必要になるので、そういったことをずっと続けていく体制が今後にも必要になります。それから、通潤橋のほうでは、一番右の写真ですが、除草作業を行うときに、20メートルぐらい高さがある石橋ですので、山岳連盟さんや自衛隊さんにご協力をいただいて除草をするということも毎年やっています。平時からのこうした維持管理活動を定期的に関係者と協力しながら行い続けることが、地震などの災害時において速やかな対応につながると思っております。

また、実は熊本地震の時には、通潤橋だけではなく水路や棚田なども被災を受けておまして、そういった復旧に外部の力を借りるため、棚田復興ボランティアという地元団体もできております。そういった団体と連携しながら漆喰詰めの技術を継承するような取り組みも始めているところでございます。

以上が、通潤橋の簡単な保存や維持管理の取り組みの事例のご紹介です。

■知野 ありがとうございます。ご提案ということで、ぜひ福島でも今のお話をご参考にいただければと思いました。大津山様、ありがとうございました。続いて、山形県で万世大路の保存活動に取り組まれている梅津様、ご自身のこれまでのご経験を通じて、石橋群の保全についてご意見をいただければと思います。お願いいたします。

■梅津 ありがとうございます。萬世大路保存会という団体ができたのは、今から31年前でありまして、名称がちょっと違っていますが、「萬歳の松保存会」ということで、明治天皇がお通りになった場所に松の木を植えたり、いろいろ記念の行事をしていましたが、実は万世小学校の校庭にもその松があったんですが、小学校が移転することになったとき、「この松、誰が管理するの?」ということになり、地区の人たちが全戸加入で、我々が地域の宝として整備・保存をやりましょうと団体をつくったのが始まりです。自然教室などで萬世大路そのものを散策するようになり、散策するにも安全確保をしなければならず、今まで保存会の人たち、役員の人たちにそれぞれ協力をいただいているところなんです。

このたび、先ほど後藤先生からもお話をいただいたわけですが、山形県の近代化を進めた初代県令・

63P

石工による石積みの復旧

※地元団体による石工養成講座参加者による工事参加



63
ページ

64P

災害復旧対応の基盤となったもの

『重要文化財 通潤橋
保存活用計画』
(平成27年3月策定)
計画策定事業：平成25年4
月～平成27年3月までの丸
2ヶ年を要す。
専門家+地元各種関係者(水
路・観光)で協議を行う場とし
て委員会組織を結成。



記録の収集
⇒ 写真、3次元計測データ

64
ページ

65P

委員会組織

通潤橋保存活用計画策定委員会

⇒ 通潤橋保存活用検討委員会 (H27.4～)

- 委員
- 専門家 6名 土木(景観)、地質学、構造工学(橋梁)、考古学(石垣)、保存科学、漆喰関係
 - 地元 7名 通潤地区土地改良区、白糸第一自治振興会、観光協会、商工会、中心市街地活性化協議会実行委員会、文化財保護委員

- 保存に関する検討部会
- 各専門委員 5名+
 - 文化財保護委員 1名

- 活用に関する検討部会
- 専門委員 1名+
 - 地元委員 7名

65
ページ

66P

「通潤橋保存活用計画」で重視したこと

- ① 通潤橋に特有の「現役の通水機能 = 生きている文化財」の位置づけを再確認
- ② 維持管理(メンテナンス)とモニタリングの手法の検討、体制づくり
- ③ 保存と活用の関係性を明確にし、「通潤橋の価値を高める活用」の考え方を再考

66
ページ

67
ページ

67 P

「修理工事」が終了しても、終わりではない…

- ◆定期的な維持管理、モニタリング（石橋の変形、傾斜等）、必要時調査研究等
- ◆維持管理を担う土壌改良区の高齢化、維持管理の担い手確保
⇒ 平時からの継続的な取り組みの積み重ねが重要



通水管漏水修理（漆喰の詰替え）
石垣の除草（山岳連盟・自衛隊）
「ヤマトシロアリ」生息確認モニタリング

68
ページ

68 P

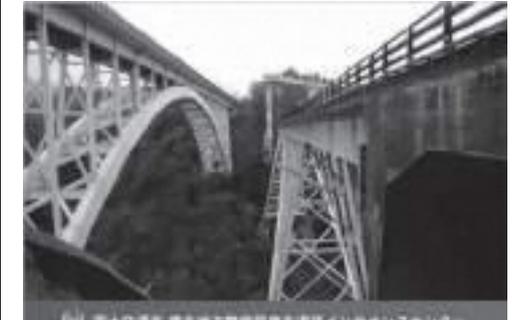
漏水箇所の漆喰詰替えは、今後も継続して実施することが必要
⇒ 棚田復興ボランティアとの連携
細やかなメンテナンス（維持管理）を行い、通潤橋を将来へ



漆喰詰めワーク
シヨブの様子

69
ページ

69 P 橋梁の定期点検



国土交通省 東北地方整備局 東北道路メンテナンスセンター
東北道路メンテナンスセンター「業務概要」から引用

三島通庸を主人公にして大河ドラマに取り上げていただきたいという運動を、今、進めているところであります。令和3年6月に会が発足しておりまして、令和4年度には、石橋や山形旧県庁、済生館病院等々を見学してまいったところです。その時に、やはり石橋というものを改めて見てみますと、すごいことなんだなと。140年以上たっても現役でちゃんと活躍しているというのが大きな感激であったということで、これを未来に残していきたいものだなと思っているところです。

このことについては、明治11年にイギリスの旅行家のイザベラ・バードという女性旅行家書いた『奥地紀行』という本に、この石橋を造っている現場を見た感想が残っているんですね。すばらしい技術ですばらしい道路を造っているという、そういう称賛を頂いているというのも大きな価値だと思っているところですが、これを残していくためにはどうすればいいかというのは、私どもに問いを投げかけられてもなかなかうまく答えられないんですが、道路・河川の仕事なので、国・県・市の行政の皆さんと、それから地元の我々が協力して、それぞれ分担してやるしかないのかなと思っているところです。

我々は何ができるかという、萬世大路保存会では、やはり記念碑公園とかそういうところの草刈りをしたり、公園をきれいにする作業を、早朝作業で1時間ぐらい、10人から15人ぐらい出てきてもらうとさっと終わるので、そういう仕事を年3回ないし4回しておりまして、駐車場の脇にある萬世大路記念碑公園をきれいにして、そこに駐車をしたときに安らいでもらうというか、そういう仕事をさせてもらっております。我々は労力奉仕をするわけですが、国道事務所のほうから、実は現物支給のような形で手袋とか草刈り機械のガソリンとか、あるいは除草剤とかを現物支給していただいております、それらを利用してきれいにしている状況であります。

この石橋についても、今、お話がありましたように、川に架かっていることなので、なかなか素人としては安全確保が難しいと思いつつながら、道路上にあるものについては草刈り程度はできるかなと。それから、現物を支給していただければ、除草剤も撒けるかなと思っているところなので、きょうは福島河川国道事務所の所長さんもいらっしゃっておりますので、ぜひ、そういう地元に対して、現物支給などのご協力をいただければ、私たちが動けるかなと思っておりましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

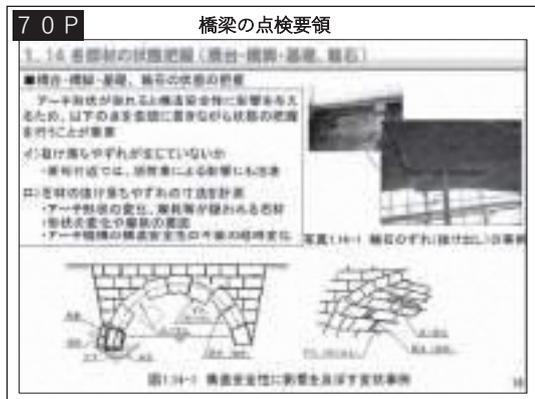
先ほど中学校の先生からお話がありましたが、子供たちが地域を学習するという話ですが、これについては私と小学校の校長先生で話を、今年の5月1日に、実は30年ぶりに小学校の「全校遠足の日」というのを設けて地域の学習をしたんですね。「1年生はここ、2年生はここ」と場所を決

めておいたんですが、そのほかに、5年生になると、この土木遺産、萬世大路を見学して1日コースで子供たちが回ってくる。5年、10年たったときに、就職したときに、「どこ出身？」といわれて「万世です」と。「万世には何があるの?」「何もない」という答えしか返ってこない。地域を学習することが大切だと校長先生とお話をして実現したところでありました。

そんなこともありまして、今回、石橋についてもそれなりの勉強ができるテーマができたのかなと、このように思っているところなので、ぜひ、国・県・市・地元のみんなで協力をして保存をしていかなければならないなと強く感じたところでもありますので、ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

■知野 梅津様、ありがとうございます。貴重な状況をお知らせいただきありがとうございます。2つ目のテーマでまた締めさせていただきます、最後に社会資本のメンテナンスにも詳しい丸山所長様に、石橋群の保全活動を進める上でのアドバイスをお願いできればと思います

■丸山 69P 国では現在橋梁の長寿命化に重点的に取り組んでいるところであり、「点検要領」というものが策定されておりますが、70P 国や県が管理している道路には石橋がほとんどないため、橋梁の特性、変状のメカニズムなどの知見に基づいた石橋の点検要領というのが定められておりません。



70
ページ

一方で、九州地方には自治体が管理する石橋が多数存在していることから、石橋独自の点検要領が検討されておりまして、その要領では、石材の抜け落ちやずれが生じていないか、抜け落ちやずれの寸法を計測することが重要ということが記述されております。

この石橋の点検・保全に関する知見というのは、全国的に広がっているわけではありませぬので、先ほど通潤橋の話などもありましたが、こういった先進的な地域の事例を学ぶとともに、こういった地域との連携、さらには石橋の構造に関する知識を有する技術者の育成みたいなことも重要なのではないかと考えております。以上です。

■知野 ありがとうございます。補助金等の金銭面的なところも、ぜひ国としても今後ご検討いただければと思って聞いておりました。ありがとうございます。それでは最後のテーマとなりますが、「石橋群を地域づくりに役立てていく方法」となります。



71
ページ

最初に齊藤様からご提案をお聞きしたいと思いますので、地域づくりに役立てていく方法についてお願いできればと思います。よろしくお願ひします。71P

■齊藤 さっき梅津さんから「全校遠足」という話を聞いて、今、すごくワクワクして、いいなと思っていました。「開かれた学校」という言葉があるのですけれども、個人的にはまだまだ地域と学校の連携は進んでいないなと思っていました。ただ、地域の宝を育てるのに、地域を知らない教員が授業をしていていいのかという疑問をずっと持っていました。松川の取り組み、地域交流活動をすると、すごくその効果がわかりまして、子供たちが本当に地域を大好きになって、そこで育ったことに誇りを持つようになって、卒業した子たちも地域のために活躍したいという子がすごく増えたように感じました。

72
ページ



74
ページ



75
ページ



76
ページ



なので、こういう取り組みが増えていけばいいと思うのですが、なにせ教員は転勤がありまして、地域のことを知らぬ間に異動という、結構そういうことが多いと思うので、私たちが地域のことを知らないといけない、こんなにワクワクするお話をほかの先生たちにも聞いていただきたい、と思いながら聞いていました。学校が地域を知る機会がもっと増えたらいいなと思いました。以上です。

■知野 ありがとうございます。問題点等のご提起の貴重なご意見かと思えます。

続いて、「街道愛好家」と書いてあるので、愛好家の山口様、ご提案いただければと思います。お願いいたします。

■山口 では、ちょっと画像を見ながらなんですけど、石工繋がり、この石橋のお話を頂いて思い出した個人的なエピソードをご紹介します。72P

これは私の実家近くの小さいお寺ですが、住職さんとしゃべったら、「ここに最近大きい観光バスが来て驚いたんですよ」という話を聞いて、どうしてですかと聞いたら、この一対の石柱、これだけを見に観光バスがはるばる来たというんです。何でかという、この石柱の石工は小松寅吉、そのあとの襲名した布孝という名が彫ってあるので、このお寺でなく石柱だけを見に観光バスが来た。この石工は狛犬で有名なので、いろいろ地域の狛犬を巡っているツアーをやっている中で、わざわざこれだけを見に寄ったということなんです。

もちろん地域の方も、「えっ？これ、そんなにすごいものだったの？」と驚いて、私の親の世代もみんな知らなくて、先ほど梅津さんの話にもあったように、長く住んでいても、案外地域の資源を結構知らない、逆に住んでいるから知っていると思込みがちだなということ、まさに感じた事例です。74P

続いて、案外、そういう地域の資源というものって地域の方は知らない、意外とよそから来た方のほうが丁寧に拾っていてくれたりする事例のご紹介なんですけど、松川橋周辺にも「そこが古くから往来のあった道

だった」という証跡がいくつかありまして、75P 例えば道路元標。これは中町の稲荷神社境内にあるのですが、76P これは何かというと、大正8年の道路法で定められた「標識」で、「各市町村に1箇所設置するべし」というもの。現在でも全国に2千基弱確認されていて、福島県は比較的多く2百基弱現存しておりまして、石橋群の周辺にも多く存在しています。77P

次に明治天皇巡幸の碑。福島県は明治9年と14年に巡幸があったのですが、明治天皇がお休みされたりした場所にこんな碑が立てられています。全国で千箇所以上あり、これを巡り歩いている方も意外と多くて、個人で全国のこの巡行碑のマップなどを公開されている方もいます。

78P 続いて、これは松川橋よりも少し南にあります八丁目天満宮の鳥居の根元、見えるでしょうか、「不」の字が彫ってあるんですけど、これは「几号（きごう）水準点」といまして、明治9年頃、当時の内務省が東京から塩竈間の水準測量を行ったのですが、その時に彫った跡なんです。全国で150か所ぐらいあって、今、福島県内に22か所程度現存しています。これも松川のあたりを詳しい人が歩いたときのレポートで、よくセットで載っているんですけど、この他にも、ここにはもともと往来があったと感じられる資源がたくさんあったりします。

例えば、そういう地域の道路に関する資源を集めて、マップなどを作成することによって、地域の方に見ていただけるような出版物を作るとか、あとは逆に詳しい人に向けたマニアックなツアーを企画するなんていうことも、地域づくりに役立てる一つの手段かなと思いました。

■知野 ありがとうございます。やはり実物があって、そこに目を引いて心を奪うというような、すごく大事な感覚というのをご説明いただけたかなと思っております。

続いて大津山様、お願いいたしますが、通潤橋は観光スポットとして有名ですが、さまざまな手法により地域おこしに活用されてもいると聞いています。その例などをご紹介いただきながら、福島の石橋群の活用に関するヒントを頂戴できればと思います。よろしくお祈りします。

■大津山 80P これはすごく有名な通潤橋の放水です。これが有名で、ありがたいことに観光客の方にたくさん来ていただいている状況ですけども、実はこの放水自体は、昔は予約制で、お金を払えばやるというような時代がありました。5人で来ても、バス1台で来ても、お金を払えば放水するというので、放水の回数だけがどんどん増えていったという時代が過去にございました。**82P**

ただ、その場合ですと、通潤橋の保存にとっては必ずしもいいことではないということがわかりま

77P 明治天皇巡幸の碑

- ・明治天皇の巡幸の際に訪れた場所に建てられた記念碑
- ・全国の主要街道筋に残る
- ・福島県内は旧奥州街道と万世大路沿いに存在

明治天皇御駐蹕之地碑
中町福壽神社 境内

77
ページ

78P 几号水準点

八丁目天満宮の鳥居の根元「不」の字の掘り込み

- ・1876年(明治9)頃から内務省が水準測量を東京～塩竈間にて実施
- 福島県内には22箇所現存

78
ページ

80P

80
ページ

82P

通潤橋の放水方法の変更
“予約放水”から“計画放水”へ

放水の観光利用 から 文化財の活用としての放水へ

50年以上に及ぶ“放水の価値”を認めつつも、1回の放水の価値を上げる方法を模索

- ・持続的な放

82
ページ

83
ページ

83 P

小学生の社会科見学と案内ボランティア



したので、関係者間での協議を重ね、現在、「放水カレンダー」というものを作って放水しております。

このカレンダーでは年間120回に上限回数を決めています。以前の予約制のときには、すぐ近くに商店街があるんですが、商店街の人も実はいつ放水しているか全く知らないと、そういう状況でした。なので、放水をやっている土地改良区さんと観光協会さん、それから役場が同じテーブルについて話し合いをして、あらかじめ放水の日時を決め、そこにお客さんに集まってもらう、商店街の人もそこで準備をしていただいて、観光の効果が広がるようにしようというような取り組みをしています。**83P**

また、通潤橋は小学校の社会科の教科書に載っておりますので、秋には県内を中心に多くの小学生の方に見学に来ていただいております。地元では案内ボランティアということで、郷土史を学んだおじいちゃんおばあちゃんが小学生向けに簡単な説明をしてみわっているというようなことをしております。

ただ、そういった活動は以前からしているのですが、今、ありがたいことに国宝の指定をいただいてから観光客の方がたくさん増えています。ただ、これがたぶん長年続くわけではなくて、どこの地域でも、ある程度、何かのきっかけで知名度が高くなると観光客が増えるのですけれども、そこから減少していくということが今後待っているのかなと思っております。**85P**

今は主に小学生向けのガイドしかないんですが、先ほどお話したように、通潤橋にはもともと水路ということ

85
ページ

85 P

新たに生じている課題

- 【放水時の社会科見学の対応】
→ 計画放水の移行による県内小学4年生の社会科見学の集中と駐車場の不足
- 【橋上の公開方法の変更】
→ 有料制への移行
→ 特に放水時の混雑が生じている。積極的な活用策の必要性につなげることができる可能性も
- 【案内ツールの整備】
→ サイン・リーフレット・HP等、観光ガイド育成
→ 史料館施設の再整備



写真 右上 平成27年度の社会科見学の状況
写真 右下 社会科見学が集中した際の道の駐車場の混雑状況

とで、地元の土地改良区さんが長年の活動をして守り続けられていることや、この水でできたお米がブランド米として地元で売られていますので、**86P** そういった活動をより広く知ってもらうような観光ガイドの養成の取り組みが必要ではないかなというふうに思っております。

地元でガイドといいますと歴史ガイドに偏りがちなんですが、そうではなくて、この地域の暮らしを知ってもらうガイドが必要だと思います。今後は、土地改良区をはじめ、商店街であったり地元の自治会と通潤橋の保全・活用を一体にした取り組みを今後進めていくことで、お客さんに対してもより魅力的な地域となるよう目指していきたいと思っています。以上です。

■知野 ありがとうございます。国宝ならではのパワーと、さらに進化していこうというところに非常に感銘を受けたところです。ありがとうございます。

それでは、梅津様となりますが、万世大路は山形県・福島県の両県の愛護団体が連携して活用に取り組んでいると聞いていますが、同じ三島通庸ゆかりの土木遺産として万世大路もからめた広域的な取り組みのアイデアなどがあればお聞かせいただければと思います。

■梅津 ありがとうございます。まず最初に、万世大路の関係で交流を進めている事例としては、萬

86
ページ

86 P

新たな橋上公開へ移行後の様子



世大路が出る前に板谷街道というところを通っていたわけですが、江戸時代は参勤交代ということで、米沢藩の専用道路みたいになっていまして、ただ、ここの峠はすごく厳しいので、東京まで7日間かかるんですが、1泊しないと行けないというような道路だったわけですが、福島の吾妻史跡保存会とか、飯坂温泉の町内会の皆さんたちと交流をさせてもらって、毎年いろいろな板谷街道にまつわる交流をさせてもらっておりますし、それから、万世大路は福島と米沢の間の48キロについて、福島の工事事務所長さん、山形の工事事務所長さん、あるいは福島県・山形県・福島市・米沢市の建設関係の行政の皆さんに、ここを散策して登る、そういうイベントなどもさせてもらっており、大きな成果を上げておりますし、今後もこういう交流を進めなければならないと思っていますところでは。

これは、昨日今日と参加させてもらって感じたことなんですが、交流してよかったと思うのは、実はバスに乗ったところ、半分ぐらい女性なんです。その中で、相澤さんの話も聞こえるんですが、周りの女の人がすごく話をしているんですね。この女の人の会話というのは口コミになってすごくいいことだなと。男は何もしゃべらないで聞いているだけなんです。女の人は見たこと聞いたことをすぐお互いに会話で確認をしているんですね。そしてうちに帰っても、隣近所の父ちゃん母ちゃんに話をしてもらっている、これが口コミでどんどんいいことが伝わっていくのだなと思いました。

きょうもパネリストに3名の女性の方もおられるので、米沢でやると男しか集まらないので、「なんだ？ この会は」と思っています。福島の女性の方がこういう堅苦しい土木遺産や建設関係、あるいは自然の見事さに興味を持っておられると感じているので、ぜひ交流を進めていきたいなと、こんなふうに思っているところでは。

実は米沢と福島と相馬、言葉は「福米相（ふくべいそう）」というのが江戸時代からの交流のエリアなんです。米沢が江戸に米を運ぶときに、阿武隈川を使って運ばせていただいたと、その阿武隈川のほとりに米沢の米倉庫が福島市のお力で復元されているという、これは非常に感謝をしなくてはならないと思ひまして、私もそこを見たり聞いたり、相馬まで行ったり、高速道路もできましたので、そういうのも含めて、福島・米沢・相馬、福島と米沢がもっともっと交流されるように、石橋も含めて交流の機会をつくっていただければいいなと思って参加させていただいたところでは。ありがとうございました。

■知野 ありがとうございます。貴重な視点かと思ひます。ありがとうございました。

それでは、この3つ目のテーマの最後で丸山所長にお伺ひしたいと思います。最近では八ッ場ダムや首都圏外郭放水路など、公共施設をめぐるインフラツーリズムなどもブームになっていますが、このような最近の動きも踏まえた石橋群の活用方法について、今後に向けたアドバイスをいただければと思います。よろしくお祈ひします。

■丸山 **88P** 石橋も、まさに観光を通じた地域振興に資するインフラとして活用できるのではないかと考えられていまして、国でも、福島市内では摺上川ダムとか荒川砂防堰堤群というのをインフラツーリズムの場所としてい



89
ページ



ることがあり、**89P** 福島県さんでも、最初の大竹次長さんの挨拶の中にもありましたが、インフラツーリズム推進会議というのを設置して、昨年度、モニターツアーを実施し、今年度は旅行会社が実施するツアーが開催されているということで、利活用を進めています。

そうした上で、ポイントとしてどういうことを行っていくべきかということでは、まずは広報だと思います。

90P 同じく土木遺産に認定されている荒川の砂防堰堤群の例を紹介させていただきますが、インフラをPRする

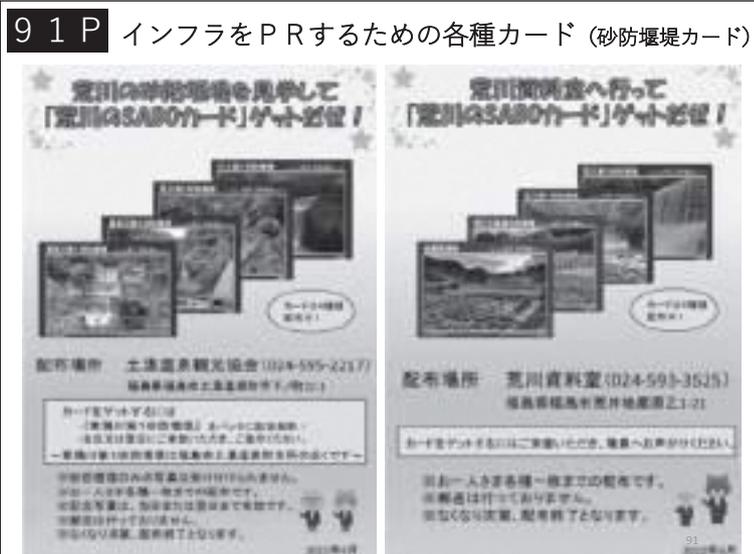
90
ページ



るツールとしてマップとかカードを活用しているというのがあり、こちらは福島西高校のデザイン学科が制作してくださったマップで、地元の高校との連携で若い世代を取り込む働きかけを行っております。**91P**

次のページは「砂防堰堤カード」というもので、こちらを土湯温泉観光協会で配布するなど、温泉観光客にも興味を持っていただく取り組みもしております。こういった広報がまず必要と考えます。**92P**

91
ページ



それから、次のページですが、広報とも関係してきますが、民間企業との連携も重要と思っております。JR東日本で展開している「駅からハイキング」の中で、荒川の土木遺産を堪能しようというメニューでモデルコースを紹介させていただいており、石橋群の活用の一つとしてこのようなコースに登録する手段もあると考えております。**93P**

さらに、イベントというところで、次のスライドですが、ウォーキングイベントを行ってございまして、ここで

もポイントとしましては地元の中学生に説明、砂防堰堤とか霞堤（かすみてい）とか、そういった土木遺産を説明いただくなど、さまざまな世代が地域に親しみを持つような取り組みを行っております。

94P

また、こちらは保全活動にも関係してくるかもしれないですが、清掃活動ですね。「荒川クリーンアップ大作戦」を年2回やってございまして、こちらは流域の企業の方ですとか、自衛隊の皆さんにもボランティアで参加していただいております。今年も2回やりましたが、各回600名程度の多くの方々に参加

していただいております。

石橋群と同じ土木遺産である荒川砂防堰堤群の取り組みなどを紹介しましたが、インターネット等の情報提供に加えまして、マップやカードの活用、本日のパンフレットにもマップがありましたので、まさにこういうものを利用していくべきと思いますし、あとは、中学生・高校生など世代を超えた関係、あと、先ほど梅津さんからお話があった女性とか、そういった方々とも一緒に取り組んでいくこと、それから官民一体となった取り組みなどが有効な手段だと思っております。以上です。

■知野 ありがとうございます。

これまで3つのテーマについて各パネリストの皆さんとアドバイザーの丸山様から石橋群の保存や利活用について貴重なご意見をいただきました。時間ももう押していますのでもう少しで終わりますけれども、全体といたしまして、今回のタイトルをもう一度考えてみますと、「石橋群が紡ぐ歴史・ひと・地域」ということで、人々を結びつけるものという点で、まさにこのタイトルどおり、石橋群が全国、本日は熊本まで結びつけてくれているわけで、そういうものを、土木遺産としてという視点ではありますが、人々を結びつける、違った言い方になりますけれども、大切な宝というか遺産になるのであれば、そのためには保全していくためのご苦労等々、きょうはいろいろ事例を出していただきました。大津山様の熊本の事例や、福島・山形の事例、皆さんで共有しあって、今後、石橋についてどのように進めていくかということを考えるきっかけにこのシンポジウムがなったのではないかと思います。どうもありがとうございました。

一言コメントをいただければよろしいですか。本当に最後になりますけれども、せっかくですので、

92 P 駅からハイキング&ウォーキングイベント (JR東日本)



92 ページ

93 P 「あらかわ・ふるさとの川ウォーキング」を開催

【あらかわ・ふるさとの川ウォーキング実行委員会】

水林自然林の緑も深まり美しい6月「あらかわ・ふるさとの川ウォーキング」を開催しました。水質連続日本一の「荒川」と歴史的土木遺産を背景に、楽しく歩いて学んでいただくコースを、あいにくの天候でしたが500名を越す参加者で開催されました。

実施概要

1. 実施月日
 - ・令和5年6月11日(日)
2. 実施会場
 - 「荒川上流域」あづま運動公園～荒川第一堰堤
 - ・受付場所 四季の里(木もれび広場)
 - ・コース
 - ① 6kmコース (あづま公園橋～地蔵原堰堤)
 - ② 11kmコース (運動公園～荒川第一堰堤)



【実行委員長の挨拶】【西信中(コースで説明)のみなさん】



【地蔵原堰堤付近の参加者】

【西信中(コースで説明等)のみなさん】

93 ページ

94 P 荒川における「クリーンアップ 作戦」 【ふるさとの川・荒川づくり協議会】 【福島市】

第2回「荒川クリーンアップ大作戦」

実施概要

1. 実施月日
 - ・令和5年9月30日(土)
2. 実施場所【荒川】
 - 八木田橋～大暗渠
 - 砂防堰堤の6箇所
3. 申込参加人数
 - 約600名



【荒川づくり協議会会長の挨拶】



94 ページ

最後にパネラーとアドバイザーの皆様から、今後、福島の石橋群保存会の今後の活動に対する期待、また、最後のコメントとしてまとめのコメントをいただければと思います。後藤様から、席順となりますが、最後、丸山様になりますが、後藤様からお願いいたします。

■**後藤** 山形と福島の石橋群の見学・交流は、このあいだ1回目をやっていただきました。今後ぜひ継続をしていただきたいと思います。それから、選奨土木遺産でいえば、福島県では、西根堰、十綱橋、万世大路、それから荒川流域治水・砂防事業、認定されていませんけれどもフルーツラインのところに円筒分水があります。きょう、この会場はほとんど男性ばかりですが、先ほどの梅津さんの話ではありませんけれども、女性はやっぱり、土木遺産は1回見たらいいか、という感じなので、「食」あるいは愉快的なキャラクターの「あの人に会いたい」ということも、今までのインフラツアーでのリピーターの条件でした。ですから、とにかく交流を深めていっていただいて、三島関係でいえば、野蒜築港に行くための関山隧道、今度、梅津さんたちのグループが山形県から宮城県の野蒜築港跡に見学に来る予定との話もいただきました。そういう点では、先ほど申し上げた南東北の野蒜築港、万世大路、その延長上にある石橋群、そして安積疏水とか、南東北の「土の道」「水の道」を回れるインフラツアーを実践できればと思います。そして、おいしい食べ物、今ですと宮城県では牡蠣が待っていますので、ぜひ来ていただきたいと思います。

■**梅津** きょうのシンポジウム、大変ありがとうございました。交流を進めるということに尽きると思いますけれども、やっぱり、近隣の福島さんと一緒にいろいろなことができるのではないかと思ったことと、それから、今ありました宮城県とか、新潟県に山形県がつながっている、秋田県につながっている、その辺のところも含めて、これから交流を広めていく、そんな活動ができればいいと思いました。ありがとうございました。

■**山口** 私としては、石橋に対する要望なんですけど、きょう、皆さんにお話を伺った中で一つ出ていないキーワードだなと思ったのが、そもそもの石橋の美しさとか、美的な視点が出ていなかったなと思ったんです。やっぱり石橋って、すごく奥ゆかしい、威厳のある美しさというか、そのものがすごく美しいと思うんです。また、今回、各地を見て回ったときに、石橋のある風景もすごく美しいなと思いました。なので、石橋本体の保存、今後の利活用という点で要望なんですけど、やはり石橋のある「風景」も一体のものとして今後も保存されていってほしいなということと、それを原風景としている地域の方の愛着とか想いも、引き継がれて、保たれていってほしいなと思いました。以上です。

■**齊藤** きょうはありがとうございました。「土木遺産」という言葉すら初めて聞いたような私でも、ものすごく興味があるという面白かったなと純粋に思っています。このことを地元を離れる前の年齢の子供たちに感じさせたいなというふうに再確認しました。子供たちが石橋の歴史を聞くことで歴史に興味を持ったり、もしかしたらデザインに興味を持ったり、建築に興味を持ったり、無限に可能性は広がると思ったので、何か学校でできることをこれから考えていかなければならないと思いました。ありがとうございました。

■**大津山** 本日は通潤橋の事例の紹介をいくつかさせていただきました。通潤橋はありがたいことに知名度があって、いろいろな団体さんからのボランティアでの協力もいただけてますし、修理工事の際には国からの補助金なども頂けたりするので、橋単体でみるとかなり優遇されている事例だと思います。一方、今回、土木学会選奨土木遺産に「福島の石橋群」が認定されたということですが、実は熊本県にもたくさん石橋がございます。こういった群として、全体として守っていくような仕組みのつくり方、お金をどこから持ってくるのか、こういった人材を集めてくるのか、そういった仕組みづくりというのがまだまだ熊本でもなかなか進んでいないですし、共有されていないところもたくさん

あります。保存にしても活用にしても、通潤橋が目玉にはなりやすいですけども、そこから広げていくような方法、関連する石橋を群として捉えるやり方が大事なのではないかなというふうに思っています。ありがとうございました。

■知野 ありがとうございました。

それでは最後にアドバイザーの丸山様から、全体を総括したコメントをお願いいたします。

■丸山 私からは2つ。1つ目が、先ほど後藤先生から「図書を出版したら」とのお話もありましたが、きょう、お話を聞いていて、やはり石橋の物語がたくさんあると改めて感じたところで、地域の人たちがこの貴重な財産を知って、誇りに思うことが重要なのかなと思いました。2つ目に、この石橋を今後どう使っていくのかということが今回のテーマだったのかなと思っています。「物事」という言葉がありますけれども、「モノ」と「コト」はセットになってくることだと思ひまして、本日のシンポジウムというのは、石橋をきっかけとして起こった「コト」ということになると思ひます。石橋保存会の皆様には、ぜひこういった「コトづくり」や、「コト語り」をしていただけたらなというふうに思ひますし、また、後藤先生から最後にありましたけれども、「ヒト」に会える機会というのがすごく重要なのかなと思いましたので、こういった機会を是非つくっていただければと思ひております。

また、私どもの会としましても、地域づくりの観点から、皆様と一緒に今後も考えていきたいと思ひておりますので、皆様のご協力をお願いし総括とさせていただきます。本日はありがとうございました。

■知野 どうもありがとうございました。時間を延長してしまい申し訳ありませんでしたが、どのご発言もとても貴重で、参考になったかと思ひ、ご容赦いただければと思ひます。

それでは、以上をもちましてパネルディスカッション「石橋群が紡ぐ歴史・ひと・地域」を閉じさせていただきます。ご参加いただいた皆様、長時間どうもありがとうございました。

(以 上)

■ 現地見学会の状況



バス乗車



松川橋視察



広表のめがね橋視察



大桂寺の石橋視察



大桂寺の石橋供養塔視察



旧壁沢川石橋視察



甚念坊山2号橋視察



旧祓川橋視察

■ シンポジウム開催状況



会場入り口（福島県建設センター）



受付風景①



受付風景②



司会（齋藤副会長）



丹野会長開会あいさつ



田中 政幸
福島市副市長祝辞



丸山 和基
福島河川国道事務所長祝辞



大竹 和彦
福島県土木部次長祝辞



相澤顧問による認定経過報告



基調講演（知野准教授）



パネルディスカッション出演者の皆様①



パネルディスカッション出演者の皆様②

信夫橋の変遷

福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ
事業推進アドバイザー

柴田 俊彰



江戸時代、奥州街道を北進し須川（現荒川）を渡ると福島城下に入る。須川に架かることから須川橋と称された現信夫橋、主に史料『信夫橋 1』に基づき二代目信夫橋を中心に、現在の四代目信夫橋までの変遷をたどる。

1. 須川橋（図1～3）

『元禄16年（1703）6月福嶋村差出帳』に、「須川橋 幅式間壺尺長式拾五間 同所橋 幅式間壺尺長式拾式間 右式ヶ所ハ御公儀様御普請ニ御座候」とあり、須川（現荒川）が川幅70間で、須川橋と称する全長25間（約45.5m）と22間（約40m）の二つの橋があり、普請は公儀が行うと記されている（図1）。

『信夫橋 1』（註1）には、「元禄十六年六月宝暦七年十二月明和五年二月ニ製セシ図面及風土雑記ニ「有橋圯而通亨」トアルヲ観テ僅ニ其構造ノ土橋ナルヲ知ル圯トハ即チ土橋ノ謂ヒナリ」とあり、安永9年板橋に変更したが、構造粗悪でその後も落橋を繰り返したと記す。

文久3年（1863）年の遠藤柳齋画（図2）には、南北方向に長板が敷かれている橋が描かれ、橋を渡るたびに「ガンタラ、ガンタラ」と音がするので、幕末にはガンタラ橋と呼ばれたといわれる（註2）。

『信夫橋 1』には、板倉藩時代架橋は藩費、橋賃は徴せず、但し渡船費は徴するとし、不時の災害対応のため、橋材を藩内山林から伐採し、須川橋の袂の倉庫に貯え「橋材ハ藩領ノ山林ヲ伐採シテ木取ヲナシ此等諸色ヲ該橋近傍ノ倉庫間口三間奥行六間ニ貯ヘ置キタリ此倉庫ノ須川橋ノ板倉ト名ス」（図3）とある。『福島沿革誌』（註3）では、須川舛形（江戸口）の建札に、須川越賃が深さにより定められていると記されている。

2. 初代信夫橋の誕生（図4）

『陸羽街道筋川橋取調帳 福島県（草稿）』（明治4年）に、「平常



図1 元禄16年6月福嶋村絵図（部分）
『信夫橋 1』より（福島市提供）



図2 福島城下江戸口の図（部分）遠藤柳齋
（福島市提供）

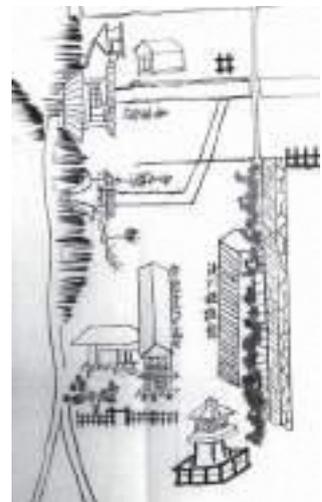


図3 須川橋板倉図
『信夫橋 1』より（福島市提供）



図4 報知新聞 奥羽御巡幸図絵
福島県下信夫橋之図
明治9年 (福島市提供)

板橋二カ所一箇所は長拾間幅一間、一箇所は長二十間幅一間官費を以て営繕」とあり、明治初年には二箇所の板橋があり、修繕は官費で実施されていたことがわかる。

『信夫橋 1』に、「明治六年時ノ県令安場保和君此地陸羽咽喉ノ地ニシテ斯克該橋ノ不完全アルヲ憂ヘ信夫郡内ノ人民ヲ奨励シ遂ニ有志ノ醸金ヲ得資産ニ乏シキモノハ力役スルコトトシ同年十月起工翌年八月二十八日落成セリ名ケテ信夫橋ト云フ是レ此岸ヨリ被岸マテ架渡セシ始メナリ」とあり、明治6年(1873)安場保和県令の呼びかけによる寄付金(工費14,600円余)と労役提供(1万人動員)で、新橋が同年10月着工、翌年8月18日竣功し、「信夫橋」と命名、同年8月28日渡橋式が実施された。

初代信夫橋は、橋長108間(約194m)、巾3間2尺(約6m)、用材(杉及び松)は土船官林を主に、常光寺他六カ寺に杉材伐採を許可する旨県が通達した。橋の完成と永久を願い、京屋宰領(監督者)14名により、翌年3月信夫橋落成式を描いた大額が大蔵寺観音堂に奉納された(図5)。当時は、「日本橋」に似ていることから話題となった。

橋賃は、人5厘、馬・車は1銭(信夫郡内有志寄付の架橋であることから、同郡内の者からは徴せず)で、一日平均12円の橋賃があったといわれる。

明治12年から14年まで数回修繕され、明治14年(1881)明治天皇東北巡幸時に横梁総て交換されたが、

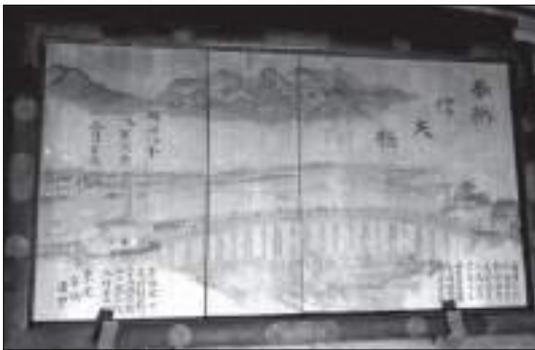


図5 「奉納 信夫橋 明治8年3月」大蔵寺観音堂
献納した。本県における私設橋の最初の献納となった。

明治15年末には有志者の修繕が困難となり、県に

3. 二代目信夫橋(図6~12)

献納後、『信夫橋 1』に、明治16年3月県会に、杉内省三郎県会議員(信夫郡松川町出身)が、総経費6万(財源予想、4万円地方税、2万円国庫補助)で新橋(架橋十八個ノ石造楕円拱(アーチ橋))を建議したが、審議に至らなかったとある。

同年10月8日の猛雨で信夫橋が落橋し仮橋を架けたが、不便且つ危険であることから、三島通庸県令が県官原口祐之に「十三個ノ石造楕円拱長百六間巾四間」の橋設計書を作成させた。

『信夫橋架設之記』(註4)には、「信夫橋は本県下福島町の咽喉にして人馬通行貨物運送頻繁の要地なり且つ該川は山間の激流にして尋常一般の木橋にては非常洪水に遭遇すれば水流足元の砂利を洗除し為に橋梁流失或は破壊を免かれ難きか故に之を永世に維持保続せんとするには石橋に優さるものなし」とし、三島県令が総額55,250円(明治17年度(27,625円)・18年度(残額))の2カ年架設計画を県会に提案。しかし、県会は議案を修正し、3カ年事業(明治17~19年度)で



図6 福島県岩代国福島町信夫橋真景図
明治18年6月13日 (福島市提供)